

チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

通信 第56号

2026.8 vol.56



2026 年第 11 回総会・ホームカミングデイ



学ぶ会（第 17 回）



まち歩き（青山通り）



2025 年度修了式

CONTENTS ■ごあいさつ

港区長

明治学院大学学長

CCクラブ代表

清家 愛

今尾 真

阿部 令子

■2026 年度 CCクラブ新体制の紹介

■2026 年第 11 回CCクラブ総会・ホームカミングデイ

■学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～CC大学18期生から寄せられた声～

～CC大学大学院生から寄せられた声～

■学ぶ会(第 17 回)「江戸っ子の大山道」

■まち歩き「大山道」に繋がる青山通りを歩く！

■ういケアみなと講習会

■明治学院高等学校総合家庭科授業協力

■運営委員会報告

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様へ

■港区長 清家 愛

皆さま、こんにちは。チャレンジコミュニティ大学学長を務めております、港区長の清家愛です。

地域で人と人をつなぎ、日々の暮らしを支えてくださっている皆さまに、改めて深く敬意を表します。

本年度、チャレンジコミュニティ大学は大きな節目となる創立 20 周年に向けた歩みを進めています。これまで 20 年近くにわたり、皆さまが培ってきた知恵や経験は、まさに「港区の宝」です。大学生との協働ボランティアや、多世代が交流するカフェの運営、さらには地域の歴史を次世代に繋ぐアーカイブ活動など、その多才な活躍を拝見するたびに、皆さまの「底力」を強く実感しております。これから夏本番を迎えるにあたり、地域のお祭りや防災訓練など、皆さまの力が一層必要とされる場面が増えてまいります。特に昨今の気候変動に伴う災害対策や、地域コミュニティにおける共助の仕組みづくりにおいて、リーダーとしての皆さまの存在は欠かせません。

また現在、高輪地区総合支所協働推進課では、明治学院大学及びチャレンジコミュニティ・クラブの皆さまにご協力をいただきながら、「チャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査報告書」の作成に向けて準備を進めております。この調査は、皆さまが地域で生み出している「成果」を正しく把握し、将来の港区の政策へと反映させるための大切なプロセスです。皆さまの「今の姿」をぜひお聞かせください。

港区はこれからも、地域課題を自ら解決できるコミュニティづくりを基本施策として掲げ、皆さまの新しい挑戦を全力で応援してまいります。

結びに、チャレンジコミュニティ・クラブの益々のご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念して、ご挨拶いたします。



チャレンジコミュニティ・クラブの皆様へ

■明治学院大学学長 今尾 真

明治学院大学学長の今尾真です。本学を学び舎として巣立られた皆さまに、お礼とご挨拶を述べさせていただきます。

チャレンジコミュニティ大学（以下、「CC大学」とする）も、2007 年の開学から早いもので、2026 年には 20 年目を迎えます（コロナ禍で 1 年中断）。

本年度も 60 名の CC 大学 19 期生と 5 名の CC 大学大学院生が入学し、ますます盛んになっております。また、2008 年に発足した CC 大学修了生の集まりであるチャレンジコミュニティ・クラブ（以下、「CCクラブ」とする）も 19 年もの長きにわたり活動され、多くの会員の皆さまが地域活動の担い手として活躍されていることを大変喜ばしく思います。これも皆さまの活動と港区のご支援の賜物と思っております。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、この 20 年を振り返ってみますと、わたしも 2024 年の明治学院大学学長就任までの 17 年間、河合克義名誉教授（現在、学長特別補佐）とともに、2007 年の CC 大学起ち上げから統括コーディネーター兼第 1 グループアドバイザーとしてこれにかかわってまいりました。授業や宿泊研修、修了後の各期の皆さまとの交流など様々な思い出が頭を駆け巡ります。とりわけ、2014 年に CC クラブの皆様とフランス成年後見法制に関するパリ第 2 大学での講演会参加や貧困や社会的孤立に苦しむ人々への支援を行うフランス・カトリック救援事業団（Secours Catholique - Caritas France）の視察は、心に強く残っている記憶です。

本年 12 月 5 日（土）に、CC 大学創設 20 周年記念の式典が開催されます。皆さまとともに、この 20 年を振り返り、いろいろな思い出を語り、また現在の活動のお話を聴かせていただければと存じます。そして、これから先の 30 周年に向けて CC 大学の夢を語り合いましょう。式典を成功させるには、皆さまが 1 人でも多く参加されることに尽きます。皆さまにお目にかかれることを楽しみにしております。

最後に一言、いつものフレーズを申し上げます。「皆さまの母校は、明治学院大学＝CC 大学」です。皆さまの活躍は母校の誇りでもあります。また、皆さまもこのことを自覚してさらなる活動の輪を広げていただくことを期待しております。今後ますますのご活躍とご発展を祈念いたします。



新年度にあたって

■CCクラブ代表

阿部 令子(10期)

CC大学1期生が修了した年の3月に、自主的に創設されたCCクラブも20周年を迎えます。

何もない所からのスタートは、どれほどのご苦労があったことでしょう。

それでもそのころは、みんなで集まってワイワイしながら作り上げていくことがすごく楽しかった！と、1期生の先輩が嬉しそうなお顔で、教えてくださいました。今でも元気に活動に参加している先輩方の姿は、誇らしく人生の目標でもあります。多くの会員が、地域で地道な活動を継続し貢献してくださっているお蔭で、CCクラブの存在価値を高める結果となっています。

現在、会員数900名近くの立派な組織となりました。これから先も、より良いCCクラブに成長する為に、先輩方の熱い想いを胸に、今度は、私たちが知恵を出し合い考えていかなければなりません。老いも若きもひとり1台スマホを持ち、どんな難しい事でもAIがすぐに答えてくれるような便利な時代に、CCクラブは、皆様にとってどういう存在ですか？

今年は、CC大学20周年事業に加えて、会員の現在を問う活動実態調査も行われます。アンケートにお答えいただく中で、CCクラブについて、改めて考えるきっかけになれば幸いです。CCクラブは、期やグループを越えた仲間ができる場所です。人と人との繋がり大切さや温もりに気付く、いつでも会員が心穏やかに、楽しく集えるCCクラブでありたいと願ひ続けます。楽しいCCクラブである為に、皆様から寄せられた意見をしっかりと受け止め、今後の運営に活かしていきたいと考えています。

最後に私事で恐縮ですが、任期満了の4年目となります。最後の一年、精一杯務めてまいりますので、引き続きお力添えいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。



チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳以上の方を対象に、各々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、CCクラブ会員が自主的に地域活動をしています。地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

年間を通しての全体活動として、主な活動は以下のようなものがあります。

- ・総会、ホームカミングデー
- ・明治学院大学との協働活動
- ・みなと区民まつりへの参加や港区との協働活動
- ・港区社会福祉協議会地域福祉フォーラムの運営協力や協働活動
- ・活動報告会

また、地域での活動として各地域CCクラブでの活動や多くの活動機会ができています。

- ・芝CCクラブ(芝地区)
- ・明虹会(芝浦・港南・台場地区)
- ・高輪地区CCクラブ(高輪地区)
- ・3Aクラブ(赤坂・青山・麻布・六本木地区)

様々な機会を通してご自分でできることを探しチャレンジしてみてください。

また、会員相互の情報としては、各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を適宜紹介していきます。

2026年度CCクラブ新体制の紹介

副代表

瀬能 正実 (10 期)

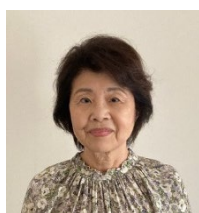
副代表を拝命し、今年で 4 年目を迎えます。阿部代表の下、組織運営が円滑に進むことを重点課題として取り組んでまいります。今年度はチャレンジコミュニティ大学がスタートして 20 年を迎える節目の年であり、CC クラブ会員数も 860 名を超える大所帯となりました。「For others, with others」の気持ちを大切に、一日一善の心で人と接する日々が皆様と過ごせればと願っております。CC クラブの活動の一つに對外活動支援があり、運営委員会や地区会議を通じて情報交換や意見交換を行い、メンバーの地域活動の充実につながるよう尽力する所存です。



副代表

金原 智子 (10 期)

CC 大学も本年度は創立 20 周年を迎え CC クラブはおよそ 870 人もの会員を擁する団体となりました。このような大勢の方々の活動に伴い、個々の考えや意見も多様になってきたように思います。運営委員会ではこれまでの会議の形式に拘らず、もっと参加しているみんなの声を聴くような場にしたいとの要望もありました。先輩方の経験や言葉に習いながら、新しい CC クラブの在り方を考えていきたいと思ひます。皆様は日ごろから地域活動をはじめ、多彩な活動に取り組んでおられますが、ぜひ年に 1 度の総会や、活動報告会にもお顔を見せていただき旧交を温めていただきたいと思います。



CC クラブでは何よりも自分達が楽しんで活動することが一番です。「学ぶ会」や「まち歩き」は期やグループ、部会や地域をまたいでの楽しい交流の場となるでしょう。今年も多くの方に出会いの場を広げていただきたいと思います。

企画部会

久我 英二 (15 期)

今年度の企画部会は 29 名、講演会・学ぶ会担当 13 名、区民まつり担当 11 名、関連団体イベント・

ICT お助け隊 8 名、お楽しみ隊 4 名のチーム編成です。それぞれにチームリーダーがいます。チームの一人ひとりが、当日のイベント実施要員に止まることなく、企画から主体的に参加し、みんなで力を合わせて楽しいイベントを実現することを目指します。そのためには、これまで以上にチーム内でのコミュニケーションを日常的に活発化していくことが大事だと思っています。

過去に培ってきたものをベースに、新しい企画も実現していくことができたらと思います。

部会員には自由な発想で提案して欲しいので、前提として提案者・発案者がその実行責任を背負うのではなく、みんなで相談して、やろうということになったら、その上で実行に向けて体制を整える形を目指します。よろしくお願いします。



ホームページ部会 阿部 正人 (15 期)

2026 年度は 18 期生 3 名を迎え、総勢 11 名で活動を開始しました。CC クラブホームページ (以下 HP) は CC クラブ会員 (以下、会員) および地域の皆様への情報発信の場であると同時に会員同士が情報を共有する場としての役割も担っています。また日頃の活動記録や会議の議事録などを保管するアーカイブとしての機能も重要です。運営委員会、各部会、各地域 CC クラブ、各期・各グループの活動状況をタイムリーに発信し、その足跡を記録して残すことを大切な任務としています。



今年度も HP のさらなる充実と普及を目標に取り組んでまいります。加えて、月次で「スマホ・パ

ソコンお困りごと相談」を開催し、会員や地域の皆様のデジタルスキル向上にも努めています。会員の皆様にはHPを活用した情報収集・発信を引き続きお願い致します。HP部員は、投稿支援及びHPの利便性向上・セキュリティ強化ができるようさらにスキル向上に励みます。

会 報 部 会 瀬能 正実 (10 期)

新年度の会報部会は新旧の交代もありましたが、新たに 16 期生 2 名・18 期生 1 名、合計 3 名を迎え、総勢 11 名でスタートいたしました。今年度より副部会長制もスタートさせ活動の充実化を図っております。

メイン業務である 7 月と 3 月の CC クラブ通信発刊へ向けて、原則月 1 回の定期部会を行いワークしていく所存です。それに加え、今年はチャレンジコミュニティ大学がスタートし 20 年を迎える節目の年となり記念誌の作成業務も加わっております。そのため、CC クラブの催し（総会・活動報告会等）については部会員全員で、又企画部会、地域連携部会等の催しには積極的に部会員が参加し記事の作成を行い、そして編集会議を行ってまいります。

具体的には、CC クラブ通信の一つ一つの記事、文面一字一句を、部会員で読み合わせ且つ意見交換しながら協力しあって、一つの号が印刷され、CC クラブ会員皆様のお手元に届けます。



地域連携部会 大友 登喜雄 (15 期)

当部会は 18 期生 2 名を含む 15 名で、明るく楽しい部会運営を心掛けています。定例部会を毎月開催して意見交換や情報共有を行い、各自参加したい活動に取り組みます。また明学や 5 支所協働推進課、港社協と連携し年 4 回「地区 CC 会議」を主催します。

当部会は CC 会員の活動の紹介や各地域活動との連携を図っています。主な活動は、①クローズアップ CC：会員の地域活動を HP に掲載します。

②1 Day for Others：港社協「バリアフリーマップ作成」と NPO 法人みなと外遊びの会「高輪森の公園・プレイパーク遊び」に明学生のボランティア活動の一環として参加してもらい、秋には 19 期生にも呼びかけます。③昔遊び継承：芝 CC と連携し赤羽小学校生徒と「コマやお手玉、めんこや羽根つき」をしながら昔遊び継承をお手伝いします。④明学生のボランティア活動や自主活動への支援・協力も行います。⑤河合先生にご指導いただき、高輪支所・協働推進課と協力して「2026 年版活動実態調査」に取り組みます。会員各位のご協力をお願いします。



総 務 部 会 大和田 るみ (17 期)

総務部会は、CC クラブの総会や運営委員会の開催支援、議事録の送信など縁の下での力持ちとして、皆さまが活動しやすい支援をしています。

2026 年度は、新たな取り組みをはじめます。例えば、会員の皆さまの疑問や相談にお応えする相談窓口の設置、ネットワークの構築、区内での防災体験等、できることから少しずつ進めていきます。

とはいえ、私達も CC クラブ会員の一人ですので、楽しみながら実行していくことをモットーとしています。

また、好奇心と探求心を大切にしながら、分からないこと、困ったことがあった時には、「そうだ！総務部会に聞いてみよう！」と思っただけの部会を目指してまいります。ご連絡をお待ちしています。ccc.soumu.member@gmail.com



2026 年 第 11 回 CCクラブ総会・ホームカミングデイ

2026 年第 11 回 CC クラブ総会・ホームカミングデイは、明治学院大学 3201 教室とパレットゾーンにて 6 月 13 日（土）13 時 30 分～18 時 30 分で開催されました。総会には会員 94 名、来賓 15 名、ホームカミングデイの講演会には会員 98 名、19 期生 12 名、来賓 13 名、一般の方 4 名、パレットゾーン 2 階で行われた交流会には会員 73 名、来賓 11 名が参加しました。現在の会員数は 869 名です。

総会は、13 時 30 分に金原智子副代表（10 期）の司会で始まり 4 名の方の挨拶がありました。

CCクラブ 阿部令子代表（10 期）

チャレンジコミュニティ大学が創立されて 20 年になります。チャレンジコミュニティクラブも 860 名を超える会員数となりました。これからも地域で活躍する会員を支え、多くの仲間とともに地域貢献活動が続けていきたいと思っています。将来を見据え、今、私たちは何をしたら良いのか知恵を出し合い、考えながら、さらなる組織の成長を目指してまいりましょう。ご協力のほどお願いします。



港区高輪地区総合支所総合支所長 白井隆司様

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様方には、みなと区民まつりへの参加など区の様々な事業に、日ごろからご協力いただき、地域のつながりに精力的に活動していただいております。今年は CC 大学が開設から 20 年を迎える年であるとともに CC クラブ活動実態調査にも取り組まれると伺っております。高輪地区総合支所は引き続き皆様の活動を支援してまいります。



明治学院大学副学長・チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーター 黒田美亜紀様

人生 100 年時代といわれる中で年齢や立場にかかわらず学び続けるということが求められています。その場を港区の支援があって明治学院大学が皆様にできていることをうれしく思っています。地域社会に開かれた知の拠点として、多様な人々が集って、学んで、つながりあう場でありたいと、明治学院大学は思っています。ぜひ皆さんにはそれを支えていただければと思っております。



明治学院大学学長特別補佐名誉教授・チャレンジコミュニティクラブ顧問 河合克義様

チャレンジコミュニティ大学は 20 年経って今年の 12 月 5 日の土曜日、ここで同じ時間帯ですが 20 周年のシンポジウムを開催します。ぜひ参加ください。まずは 60 人の仲間ができ、年々つながって、今 1000 人を超える組織になっているわけですが、世界的にもまれな組織だと思います。会員調査をまたやりますが、回収率が決め手ですのでしっかり答えてくださればと思います。調査の結果をもとに皆さんと今後のことを考えていきたいと思っています。



来賓挨拶の後、明治学院大学社会連携部長加畑慎一様、同社会連携課主任遠藤孝雄様、同課主任青木洋治様、同課佐藤優希様、港区高輪地区総合支所協働推進課長飯田咲子様、同地区政策担当係長畠山恩様、港区社会福祉協議会事務局長長谷川浩義様、同地域福祉係長加藤三奈様、港区立介護予防総合センターラクっちゃ副センター長澤木香代子様、同栃堀賀江様、帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美様そして区議会議員丸山たかのり様が紹介されました。

2026 年 第 11 回 CC クラブ総会

金原副代表が進行役を務め総会が開始されました。当日の出席者数の報告に続き、規約により阿部令子代表が議長となり開始されました。

第 1 号議案 2025 年度活動実績について、阿部代表より詳細な活動内容と会計内容の説明があり、拍手により賛成多数で承認されました。第 2 号議案 2026 年度活動計画(案)については、活動方針、活動テーマ、運営部門の計画、各部会のメンバーと計画、そして地域 CC クラブの計画の説明があり、拍手により承認されました。第 3 号議案（役員選任）も承認され、総会終了後、役員 7 名が壇上に上がり自己紹介をしました。

総会資料はホームページでご覧ください。

ホームカミングデイ 講演会

開始前に来賓の港区議会議長の土屋準様がお見えになったことが紹介されました。

副代表の金原智子の進行により、CCクラブ代表阿部令子から八木ご夫妻の紹介がありました。

八木健一様は小学校6年生より、当時としては男の子が学ぶことは珍しかったアイリッシュハープを始められました。その後、ウィーン少年合唱団の出身で日本ハープ協会会長のヨセフ・モルナール氏の勧めでペダルハープに転向されました。引き続きモルナール先生に師事し、1975年、ディプロマコースへ進学されます。在学中は、コンツェルトヘボウ管弦楽団主席ハープ奏者、フィア・ベルクハウト女史より、ハープの音色の奥深さを教えられたそうです。

一方、八木ゆみ子様は、東京音楽大学器楽科ピアノ専攻を卒業し、その後オーストリアにてエリカ・ディヒラー氏に師事、クラシックを中心に研鑽を積み、クラシックからポピュラー、ヒーリング音楽まで幅広く多彩なレパートリーを展開されています。お二人は常に癒しをテーマに、自然と人との調和や平和への祈りを込めた音楽づくりを心掛けていらっしゃいます。

本日はジャンルを超えた親しみ易さを持ち、多くの聴衆の心を癒し、笑顔にしてくださるお二人が奏でる音楽を皆様にお届けできることを嬉しく思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ホームカミングデイ演奏会

ハープレクチャーコンサート

演奏者

ハープ 八木 健一
シンセサイザー 八木 ゆみ子

最初の曲は「5月の風」というオリジナルの曲です。もう6月になってしまいましたが、八ヶ岳に行ったときに、山の中でそよ風が吹いているというイメージを持って作った曲です。



2曲目は「ロンドンデリーの歌」という曲を演奏します。この曲はアイルランド民謡で、別名を「ダニーボーイ」とも言います。先ほど、明治学院の高校生の方たちが着ていた服を見てもアイルランドの方たちとそんなに変わらないと、イギリスのタータンチェックが似合う時代になったのかなと思っていました。

もう一曲イギリス関係、アイルランド関係の曲で「ケルトメドレー」という曲を演奏したいと思います。アイルランドの国章はハープで、自分たちの国のマークとしてハープをととても大切にしています。

ここでせっかくハープを持ってきましたので、ハープの説明をさせていただいて、できれば皆さんにちょっとハープに触ってもらおうというコーナーです。まずハープの構造を説明させていただきます。[ネック、弦、支柱、共鳴洞、台座、ペダルを示す] 実はハープに昔はペダルがありませんでした。何でペダルが必要かというと、半音をチェンジしたり、調を変えたりするときに必要になります。ハープはピアノでいうと白い鍵盤の数しか弦が張っていないのです。そこでペダルで弦の長さを調整して半音が使えるようになります。全部同じ弦だとわからないので、赤い弦がドで青い弦がファです。全部で47本です。やり方を簡単にお知らせしますと、椅子に腰かけ右肩にかけます。そしてどこでもいいですから人差し指で触って引いて親指で返します。久我さん、阿部さんには生まれて初めて弾いていただきました。

後半最初の曲は「美しき青きドナウ」です。この曲はヨハン・シュトラウスⅡ世が作曲した曲で、アンコールでもよく使われます。

今日はレクチャーですので、ハープの歴史をちょっと振り返ってみたいと思います。ハープは、形から獵師の使う弓だったのではないかとわれています。弓だと音が鳴りにくいので、そこにヒョウタンをつけるといい音がします。ですから楽弓と呼ばれています。長い歴史があつて、現代に至ってこのような楽器になっています。ガットという羊の腸や牛の腸で作られている弦を使っていますのでとても柔らかい音が出ます。日本は湿気が多いので、高音はナイロン、低音はスチールの弦を使っています。

この後も美しい音色の楽曲が続きますが、紹介は紙面の都合でここまでとさせていただきます。

学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～18期生から寄せられた声～

60歳を機に仕事を減らし楽しいこと探しをする中で、CC大学に入学した。まさに楽しいこと沢山の一年！人生の先輩である多くの仲間、多彩なカリキュラム、区の取り組みへの理解等を通し、多くのことを得た。地域の人とのつながりの大切さを再認識した。今後は積極的に地域に出てつながりの輪を広げる存在となり、この一年の恩返しをすると共に、その活動を自身の楽しみの1つに加えたい。

五十嵐 薫

貴重な時間を頂いた一年間でした。これまでに触れてこなかった分野の楽しさを知り、美術館目的の旅をするなど、新しい世界を広げてくれた講師の方々に感謝です。そして、分け隔てなく集うグループの方々とのご縁を大切に、一緒に次の場に関わっていこうと思います。ありがとうございました。

今野 由美



入学式

85歳で老老介護の現状を鑑み、一年間の受講を不安に感じながら入学しました。本城課長に入学生として紹介頂き、清家区長、今尾学長、多くの御来賓のご祝辞を賜り新学期が開始しました。河合先生の講義では、我が母校(敢えて言わせて下さい)の「Do for Others」の精神に深く触れ、常に頭の端にありました。級友の励ましに支えられ、無事に修了式に臨む事が出来ました。半世紀遡る学習環境を与えて頂き、新たな知見を授かり、掛け替えのない同級生が出来た事が大きな財産です。

上村 博英

チャレンジコミュニティ大学での一年間は、講義と同期生たちとの交流を通じて視野を広げることが出来て、これからの長い人生の貴重な資産となりました。今後はこれまでのITや企画力の経験を生かし、今後は情報共有の仕組みづ

くりや世代間交流の場の運営に主体的に関わり、地域に貢献していきたいと考えています。個人的には、家内と一緒に皆勤賞で卒業出来たことが最も嬉しかったです。

前浦 伸昭

地域貢献は支援すること、あてにされることだけではなく、大きな垣根を広げて、自分のやりたいこと、自分の楽しみがそこにあることが、基本だと思います。その心が相手にも伝播するからです。

村田 進益



スポーツ実習

CC大学では新たな仲間づくり、地域でのネットワーク形成、福祉、心理、経済、行政、法律、芸術などの多方面の分野の勉強などを私なりに達成することができ、皆様に心より感謝しております。今後は、多様な方々との交流を深めるとともに、地域に根差した持続可能な社会貢献を積極的に行い、港区の豊富な施設やシステムを活用して、豊かで充実した人生を歩んでいきたいと考えています。

船津 英陽

18期生としてCC大学に入学してから、多岐にわたる講義から刺激を受け、多くの新しい友人にも恵まれました。学食で再び学生気分を味わったり、学外の活動も多く、本当に楽しく充実した一年を過ごすことができたことに、心より感謝しています。特に湯河原での一泊研修旅行では、先生方や交流の少なかった友人とも話す機会を持てて、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。

高橋 奈美

入学式の日、お若い学長、教授陣に驚きを隠せず、少し不安な面持ちでスタートしたCC大学でしたが、修了した今は魅力的なカリキュラ

ムに、固まりかけていた脳を解きほぐされ、10歳も若返った気分です。昨今の長寿時代のシニアパワーに着目された港区の慧眼はさすがと言うしかありません。同期の方々の各方面でのご活躍を願うと共に、私もCCクラブに入会し、初めの一步を踏み出そうとしています。

加賀谷 洋子



文化財見学（増上寺）

きっかけは修了生友人からのアドバイス。楽しいから、絶対の一言。好奇心、向上心の塊のような同期生シニアパワーに驚く一年でした。たくさんの友人と刺激をえて、微力ながら地域貢献を心掛けます。高校生の孫にも、明治学院大学を推薦しました。

Y. I.

講義は少子高齢化、孤立化、社会福祉など時宜を得たテーマが多く、それらは近い将来、私たちが向き合うことになる切実な問題であり、とても有意義でした。また、港区の歴史や魅力、行政が抱える諸課題を、担当部署の責任者から説明を受け、改めて知ることができました。この学びの機会を下さった高輪地区CCクラブの皆様には感謝しています。何か私にできることがあればお手伝いしたいです。

田島 信洋

CC大学での一年間は、福祉を中心に幅広い教養を学び直す貴重時間となりました。これまで続けてきたボランティア活動にも新たな視点が加わり、また多くのお仲間と出会えたことも、これからの人生のかけがえのない宝物となりました。今後はボランティアを継続しつつ、CCクラブの地域活動にも積極的にに関わり、学びを少しでも地域に還元していきたいと思っています。有難うございました。

S. M.

港区での独り暮らしが始まったのは古希を過ぎていました。不安だらけの出発でしたが、住

民の方々の優しさや、港区の手厚い福祉に大変助けられてきました。それに、なんといってもCC大学での一年間でした。皆様方と繋がり、同じ時間を共有できた事、これからの大きな支えになってくれる事でしょう。一年間本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願い致します。

S. U.

1. 明学の先生方を中心に講義を受けられて感銘を受けました。2. 改めて区役所、関連団体の方々のご苦勞を受け止められました。3. 地域の成り立ちや郷土の歴史を学び、人の心に響く地域性こそ人として心の中に残し伝えていくべき役割を感じました。4. 経験と知恵と工夫で、満足度の高い活動が可能と理解しました。文化的にも福祉の今後でも多くのことを学びました。暮らし方に変化が起こったと認識しています。

近江 庸行



港区議会棟見学

47年振りの学生生活。講義は新鮮で仲間との語らいは楽しかった。受講目的は今後の生き方の模索。明確な方向性は見つからなかったが、私の意識が変わったのは確か。TVの中の出来事を身近に感じるようになった。狭い世界の中にいる自分を実感した。傍観者に留まるのではなく、自分から行動を起こさなければ何も変わらないという事も分かった。これからもこの学びを糧に模索を続けていきたい。

C. H.

あっという間の一年でした。当初は、続くのかと心配でしたが、先生方や皆様のお力添えで無事修了できほっとしています。修了後は、さぞ時間ができ何をしてよいか困るか危惧していましたが、CC大学で知り合った方々と繋がり、以前にも増して忙しい日々を送っています。今迄、点だったものが面になると先生が仰ったことを実感し、CC大学での経験を糧にこ

れからの活動に活かしていきたいです。

佐久間 和代

私は民生委員・児童委員になって日が浅かったので社会福祉に関する知識を得るためCC大学に応募した。授業内容は予想をはるかに超えて面白かった。社会福祉の授業は役に立ったが、それ以上に一般教養が興味深く考えさせられる内容が多かった。学生時代の単位目的の授業と比べ、とても新鮮で社会に対しての自分の無知を自覚させられた。最後の宿泊研修は記憶に残る貴重な体験だった。

田中 秀器



自然探索

地域に根ざした貢献活動の出発点になればと思って入学したCC大学、あっという間の一年でした。講義や施設見学、そしてランチタイムで同グループの皆さんから様々な活動の様子を伺っているうちに、「私も活動したい」との思いが強くなりました。修了した現在、新しい一步を踏み出そうとしています。今からでも遅くないですよ。この後の人生の中で、今が一番若いのですから！

奈良 雅子

入学式で学長から「知識は一生をかけて自分自身で身に付けて行くもの」とのお言葉を頂き希望と自信を得て素晴らしい学友達にも恵まれ有意義な受講修了を迎えられ、今後は学んだ事や“Do for Others”の精神を常に心に留め先輩方と楽しく無理なく活動に関わって行きたいと思っています。港区のご支援、お世話になりました明学の教授の皆様、スタッフの方々に心から感謝を申し上げます。

北野 ひとみ

この一年、CC大学で学ぶことの楽しさを存分に味わうことができました。授業は新鮮な刺激に満ち、授業後に仲間と交わす会話も大きな喜びでした。不慣れだった領域のコミュニティについても、講義や施設見学を通して理解が深まり、自分の視野が広がったと実感しています。これからは、CC大学で得た学びに少しでも恩返しできるよう、小さなことでも自分なりに取り組んでいきたいと思っています。

廣田 幸子

毎週水曜日が楽しくて、あっという間に過ぎてしまいました。幅の広い分野での授業、大雨の中の増上寺宝物展示室見学、明治学院チャペル見学・施設見学、舞岡公園自然探索、バッハ鑑賞会、ためになるスポーツ実習、まとめの宿泊研修での話し合いと発表と実りある学習ができたことは、全て港区、明治学院の皆様のおかげと感謝です。これからの活動に生かしていきたいです。

雨森 園子



芸術鑑賞

長かったようで短かった大学での一年間。60歳すぎて大学の講義室に座った感動！ノートを取る自分にワクワクしました。沢山の友人ができ学食でランチを共にし、笑い、又来週と挨拶をする。そんな日常の大学生活の全てを通して、思い切ってCC大学の願書を出した自分を今でも褒めてあげたいと思っています。

吉川 美起

大学生活は、仲間との通学や同じ席での授業、毎週のランチで 食券が上手く買えずに学生さんが教えてくれた。などの何気ない会話から、授業・いま関わっている活動や仕事と広くコミュニケーションを重ね、活躍の数々に多くを学び刺激を受けました。同じ地域の世代を超えて出会えた、かけがえのない友をこれからも大切にしていきたいと思っています。

上原 尚美

私は、特に河合克義先生と金子充先生の講義を通じ、「都市部における高齢者の孤立」に強い関心を持ちました。地縁の薄い都市特有の課題を深掘りしたことは、自身の視座を広げる大きな糧となりました。また、毎週グループ 20 名の仲間と学食を囲み、対話を重ねた時間はかけがえのない財産です。この多角的な学びと交流が、知識の深化と自己の成長に繋がりました。

この経験を今後に活かしたいと考えます。

清水 信夫



宿泊研修会

お洒落なキャンパスでの勉強と多くの仲間ができ、この一年、素敵なキャンパスライフを過ごすことができました。2月のCCクラブの紹介を聞き、全体組織がしっかりしている点と参加したことがあるのですが高輪地区CCクラブの活動の充実ぶりを再認識しました。今後は、ホームページ部会のメンバーとしてCCクラブの活動に力を入れたいと考えます。よろしくお願いいたします。

本原 幸夫

期待以上の時間を過ごせたことに感謝です。友人づくりには関心がなかったのですが、良き友にも出会うことができ嬉しいことでした。港区に住んで半世紀以上、改めて区政を知ることにもなった。CC大学の趣旨から福祉関連の講義が多くなることは当然ですが、教養の講義がもっと欲しかった。一年では短く継続の機会を設けて頂けたら幸いです（現在の大学院の在り方ではなく）。ありがとうございました。

H. D.

チャレンジコミュニティ大学 18 期生として入学した私のスタートは4月9日1限目からであった。「地域福祉と住民参加」厳しい現実のお話に愕然とした。その後、スポーツ実習、文化財見学、港区講義、区議会棟見学、舞岡公園自然探索、芸術鑑賞、バッハアカデミー合唱団の演奏会等通常のカリキュラム以外にもたくさんの行事があり充実した一年でした。お世話になりました関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

月岡 美枝子

地域活動の知識不足を補うべく入学した一年前。当時は、未知だった福祉や地域の現状も、今は港区のリアルな課題として深く理解できました。学びを通じて「社会の役に立ちたい」という情熱が芽生え、現在は、民生委員・児童委員や観光ボランティアガイドなど活動の場を広げています。ここで得た知見と仲間こそが私の well-being の源泉です。可能性を広げてくれた有意義な一年に、心から感謝いたします。

五十嵐 一栄

大変貴重な機会を得ることができて、多くの学びがありました。多才でユニークな方々の講義は大変楽しく、素晴らしい仲間にも出会えて、毎週水曜日が楽しみでした。観光ボランティアやガイドをしておりますが、今後は港区で少しでもお役に立てるようCC大学に関係した活動もしていきたいと考えております。

根塚 雅和

1. 一年間、チャレンジコミュニティ大学生生活を送らせてもらったことは、感謝しかありません。2. おかげで 60 名の知らない人達に混じって、同じ時間を過ごし、友とも出会いました。3. これから自分の目標に向かって生きていけるように、楽しい場を作る活動ができればと考えています。

S. T.

あっという間の一年でした。緊張の上に緊張を重ねた入学式から始まり感動的修了式まで色々な講義をして頂き感謝。強いドシャ降りの中の増上寺美術鑑賞、養護施設訪問も良い経験になりました。一年間の経験を糧としシニア食堂等を始めとする地域貢献に勤しんで行きたいと思えます。ありがとうございます。

K. O.

リカレントといいつつ、CC大学で学んだ福祉や世界と日本・港区の現状、貧富の差や様々な差別の存在について、恥ずかしながら、ほとんど初めて学びました。中でも、憲法についての講義では、その歴史と込められた言葉の意味に、感動を覚えました。時折しも、憲法の「改正」が進められており、自分が今後どのように判断し行動すべきか、その指針をいただき、心から感謝しています。

飯塚 美幸

港区で不登校の子を持つ親の支援を始めたい、そんな思いでCC大学に入りました。実際に通ってみて、さまざまな講師の先生と繋がれました。発達支援教育の高倉先生、ひきこもりの関水先生、社会福祉協議会とも繋がり、今は社協さんやNPOさんと「親育ち、はなす会」という親の会を立ち上げたところです。箱根旅行も含め、CC大学はあまりにもお得なので周囲の皆さんにお勧めしています。

蓑田 雅之

学びの中で様々な出会いがあり、この皆さんとのご縁も大切に、これからも色々アドバイスを頂き、仕事もボランティアも続けていきたいと思えます。他の方の人生のお話色々伺う機会にも恵まれて楽しい一年でした。この先も健康で社会にも貢献して過ごしていきたいと思えます。

M. Y.



修了式

CC大学に参加し、これまで私の周りにはいなかった方々の多様な価値観や考え方に触れ戸惑いましたが、勉強になりました。一方で、人のために真摯に福祉へ向き合い、地域に貢献しようとする方々の姿には深く心を打たれました。私自身も、今後どのような形で関われるかを模索しながら、少しでも役立てるよう努めていきたいと思えます。

R. T.

CC大学では福祉だけでなく、文学芸術、心理、経済、法律、社会、行政等々と幅広い分野で教えていただきました。感謝です。また生活環境の違う仲間に巡り合えたことも、とても新鮮でした。今後の抱負としては、大学生活は教わるという受動的な面がございました。これからは自分から能動的に行動を起こしていければと考えております。CCクラブに入会しパワフルに活動していきたいです。

小杉 喬志

実母の亡くなった歳を越えて、Bucket Listを作り始めた。私の未知の世界に踏み出したい。その第一歩がCC大学でした。「きょういく」と「きょうよう」にあふれて、福祉、行政法律、スポーツ、芸術と楽しく学んだ。解ったこと。「私の現在地」「私は何者か」4月からは学友と共に、第2歩、CCクラブへと踏み出します。人生の宝物を得ました。

早川 京子

CC大学を修了して、今改めて感じますのは！明治学院大学の素晴らしいキャンパスでの講義。種々のキャリアを持つ講師の方や受講生達との出会い！港区の再発見！等々！そして自分を見つめ直す時間にもなりました。関わっていただいた皆様方に感謝の気持ちでいっぱいです。

M. Y.

港区に転入してラッキーでした。お陰様で、CC大学に入学出来て素晴らしい体験する事が出来ました。接する方々が暖かいです。学んだ講義の数々は刺激的で楽しめました。特に忘れられないのは横浜校の自然探索です。私の歩きが不安だったようで終わり迄手を繋いで引率して下さいました。感謝です。修了後、いくつかの会に参加しております。有難うございました！

小林 怜子



修了式懇親会



CC大学 CC大学大学院 修了式

～CC大学大学院1期生から寄せられた声～

70歳を過ぎたら「働く・学ぶ・遊ぶ・休む」が必要だと読んで 있었습니다。「学ぶ」はここ数年疎かになっていましたので、CC大学大学院一期生募集を知り応募しました。授業はゼミ形式もあり、授業後は自分の意見も発表できるという好機にも恵まれ、同期の仲間にも恵まれ充実した10か月間でした。論文作成は少々手こずりましたが、錆びついた頭にカツを入れる良い機会を与えていただきました。河合先生はじめ今尾学長の講義も大変意義深いものでありました。ありがとうございました。

伊藤 早苗

勉強することの楽しさはCC大学でも十分に味わわせていただきましたが、大学院は、さらに異次元の楽しさでした。それは大学院が、受け身ではなく自らが能動的に動くことで初めて前に進むことができる環境だったからだと思います。素晴らしい先生、素敵なお仲間たちに囲まれ、そして助けられて過ごしたあつという間の一年間。これをぜひ、多くの皆さん（といっても定員5名ですが）に経験していただけたらなあと考えております。

久我 英二

受講生として接した「人びとの心情的欲求を充足するために、人びとの生活欲求が生成した歴史の変遷（浅草の山谷地域社会、身近に在る減びゆく商店街、蘇る里山資本主義、北海道の

利尻島）」並びに「学際的に論じてきた見識と卓越した研究成果（普遍的な問題解決、日本の文化政策、フランスの生活と文化）」を手がかりに、大学の図書館の密かな時間を楽しんでいきたいと思っております。素晴らしい環境とお力添えに感謝いたします。

高橋 保夫

CC大学大学院での学びは、これからの活動について思い描いていた構想を、講義やフィールドワーク、研究論文の執筆を通して、より具体的な形に深める機会となりました。この歳で能動的に本を読み、考える時間を持てたことも貴重でした。先生方との距離の近さや少人数での濃密な学び、仲間との助け合いも心に残っています。今後は、ここでの学びと経験から得た視点を大切にしながら、日々の活動に活かしていきたいと思っております。

秋葉 有紀

CC大学修了後12年を経てCC大学院で新たに学びの機会を得ました。CC大学と違い学友が5名で双方向の授業でした。フィールドワークは山谷地区と利尻富士町で、利尻富士町では金子充先生のゼミ学生と役場職員と交流もできました。後半5か月で、河合先生の指導を受け、時間がないなか研究論文（卒業論文）に励みました。楽しく厳しい期間でしたが、今後の地域活動に生かしていきたいと思っております。関係者に感謝です。有難うございました。

太田 則義

学ぶ会(第17回)

日時：5月20日（水）14:00～15:30

会場：港区高輪区民センター1階 集会室

講師：千代田区元学芸員 後藤宏樹様

テーマ：江戸っ子の大山道

参加者：68名

講師から、古道の変遷や江戸城外郭の整備、赤坂門や大名屋敷の歴史、地形の変化などを通して、現在の東京の街並みがどのように形成されたか、紹介がありました。



大山は現在の神奈川県にあり、古くから雨乞いや五穀豊穡を祈願する霊場として信仰を集めていました。江戸時代には年間約20万人が「大山詣り」を行い、参詣のための街道が各地で整備されました。その代表が大山道であり、中世には世田谷城を経由する尾根道として利用されていました。江戸時代になると、交通の利便性向上のために直線的な新道が整備され、三軒茶屋、赤坂、青山などの街並みの形成に大きな影響を与えました。

大山道は、江戸城の外堀や城下町の構造とも密接に関わっていました。世田谷のボロ市は楽市楽座の伝統を今に伝える貴重な例であり、三軒茶屋の地名も街道沿いの三軒の茶屋に由来します。

江戸の都市形成において大きな転機となったのが、1636年（寛永13年）の外堀工事と溜池の埋め立てです。徳川家光の時代に行われた大規模な土木工事によって、谷や池が埋め立てられ、起伏の激しかった地形が平坦化されました。その結果、赤坂・青山には直線的な道路が整備され、市街地の発展が進みました。

また、赤坂門周辺には多くの歴史遺構が残されています。特に赤坂門の「食違い」と呼ばれる防御構造は、敵の侵入を防ぐために通路をずらしたもので、家康時代の構造を伝える唯一の例です。

さらに、紀州藩赤坂邸の広大な敷地は皇室へ献上され、東宮御所を経て現在の迎賓館へと受け継がれました。こうした大名屋敷や土地利用の変遷は、都市構造に大きな影響を与えました。明治以降は練兵場や青山霊園などへ転用され、今日の東京

の街並みへとつながっています。



後藤先生の世界に引き込まれる会員

まち歩き「大山道」に繋がる青山通いを歩く！

梅雨の中休みの6月17日に2人のガイド（中嶋さん、久我さん）による2グループでの「大山道歩き」が開催され、有意義な体験となりました。

まず、大山道の起点は赤坂門であり、現在は石垣だけが残っています。雨乞いに始まり、五穀豊穡、商売繁盛のため毎年20万人ほどが、大山詣を行いました。

高橋是清記念公園では高橋是清（明治学院大学卒）の銅像の前で記念撮影をしました。

青山通りの「青山」の語源は青山下野守（青山の地名のゆかりの大名）の下屋敷があったところです。次は青山霊園で、武家屋敷跡に墓地として整備され、公営墓地となり、著名人の埋葬地として現在に至っています。乃木将軍、尾崎紅葉、警視庁殉職者の墓、上野英三郎（忠犬ハチ公供養碑）、斎藤茂吉、大久保利通、志賀直哉などのお墓があります。

梅窓院（青山家の菩提寺）、善光寺（長野市の寺で東京別院には阿弥陀如来像、秘仏の御開帳などがあり）で2時間ほどのまち歩きは終了し、記念撮影を行い解散しました。



牛鳴坂でガイドさんの説明を聞く参加者

ういケアみなと講習会

5月12日(火)、講師に株式会社「生活の木」の阿部しずか先生をお迎えし、「オリジナルなアロマストーン作り」の講習会が開かれました。アロマストーンとは、部屋に置いて香りを長時間楽しむことができる、石膏でできた香りのストーンのことです。



当日は、アロマの香りが漂う講習室に17人の参加者が集まりました。まずは阿部令子代表の挨拶がありその後、4グループに分かれて、ういケアみなとに関するクイズ対決を楽しみました。

そしていよいよワークショップの始まりです。

- ① カップに石膏を入れる。
- ② その石膏に、クチナシ色素と4種類の中から選んだ好みの精油を入れて、かき混ぜる。
- ③ さらに水を加え3分間素早く混ぜ続ける。
- ④ 型に流し込み、固まる前にラベンダーのドライフラワーでデコレーションする。
- ⑤ 固まったら型から抜き、乾かす。

石膏が乾くまでの間、アロマテラピーと精油についてのレクチャーを受けました。

アロマストーン作りは、集中力と手先の器用さが求められるので結構緊張しましたが、自分だけのオリジナル作品を完成させた喜びとアロマの香りに包まれた心地よい癒しの時間が満喫できました。作ったアロマストーンは持ち帰ることができ、家の中でもストレス解消に役立っています。

今回の講習会は、参加者が学びながら楽しみ、自宅でもアロマストーンを楽しむきっかけになる好評のイベントでした。



アロマストーン作りに集中する参加者

明治学院高等学校総合家庭科授業協力

2018年から始まり今年で7回目を数える明治学院高等学校総合家庭科授業協力を6月5日から18日までの間で合計8回、高校3年生を対象に行いました。

この授業はスピーカー自身がこれまで何をしてきたのか、どんな風に人生を歩んできたか、現在は何をしていて、どのようなことを考え、日々どのような楽しみを持って生活しているのか、を話して、活発な高齢者がいることを高校生に知ってもらうことを目的にしています。

各授業は3人で対応し、各自が8分間でスピーチをし、その後3人が終わった時点で質問を受けて答えます。今年は24名の募集に対して19名から応募があり、体調が悪く不参加だった会員を除き18名が参加しました。

高校生からは各人のスピーチに対する質問の他にこのような質問もありました。皆さんでしたら、どのように答えますか。

- ・18歳に還れたら何がしたいですか。
- ・人生の中で一番辛かったこと、また、楽しかったことは何ですか。
- ・高齢者にとって何が一番大切ですか。
- ・「まともな人生」とは何ですか。



パワーポイントを使用したスピーチ

お詫び

CC通信 55号4ページの活動報告会3Aクラブの発言内容に誤記がありました。

(誤) 赤坂・青山・麻布に虎ノ門を加えて構成される地区CCクラブです。

(正) 赤坂・青山・麻布に六本木を加えて構成される地区CCクラブです。

お詫びして訂正いたします。(会報部会)

■運営委員会報告

2026年度の運営委員、部会員、地域CCクラブ委員は以下の通りです。(2026年6月13日付)

CCクラブ代表		副代表	
阿部 令子 ^⑩		瀬能 正実 ^⑩ 金原 智子 ^⑩	
運営委員		運営委員	
1 期 ② 吉田 秀博	9 期 ① 昌子 浩人	1 5 期 ① 谷 淳	1 7 期 ① 石川 洋
2 期 ② 野口 美津子	1 0 期 ① 原田 洋子	② 安井 裕子	② 長村 良一
3 期 ② 池谷 敏雄*		③ 岡田 梨香	③ 松吉 俊治
4 期 ② 平岩 力 *		① 服部 厚雄	① 上村 博英
5 期 ① 大竹 裕	1 1 期 ① 鈴木 孝明	② 大鷲 淳子	② 近江 庸行
6 期 ② 佐藤 紀子	1 2 期 ③ 藤井 恵子	③ 河本 知之	③ 蓑田 雅之
7 期 ② 太田 則義	1 3 期 ② 安住 芳英		
8 期 ① 加藤 待子	1 4 期 ① 鈴木 正道		

【注記】 ●内の数字はグループ * 3期、4期は連絡員

部会	部会長	副部会長	部会員				
企画部会	久我 英二 ^⑮	太田 則義 ^⑦ 秋葉 有紀 ^⑮ 山西 加代子 ^⑮	野口 美津子 ^②	内田 眞也 ^⑬	北川 範子 ^⑮	掛林 敦子 ^⑮	近江 庸行 ^⑮
			西田 宏子 ^⑨	小川 寧子 ^⑮	齋藤 美加代 ^⑮	袴田 順子 ^⑮	小杉 喬志 ^⑮
			阿部 令子 ^⑩	清水 和美 ^⑮	高橋 恵美子 ^⑮	松永 広 ^⑮	月岡 美枝子 ^⑮
			中嶋 博 ^⑮	桑原 いづみ ^⑮	難波 富貴 ^⑮	松吉 俊治 ^⑮	二井 裕美 ^⑮
HP部会	阿部 正人 ^⑮	岡部 正実 ^⑩	平田 渥美 ^⑮	鴨下 尚子 ^⑮	近江 久美子 ^⑮	安岡 香 ^⑮	宮川 定仙 ^⑮
			齋藤 正精 ^⑥	石賀 幹春 ^⑨	松尾 知足 ^⑮	五十嵐 一栄 ^⑮	本原 幸夫 ^⑮
地域連携部会	大友 登喜雄 ^⑮	金原 智子 ^⑩ 丸毛 昭生 ^⑮ 太田 則義 ^⑦ 大住 美佐子 ^⑮ 平原 由紀子 ^⑮	佐藤 紀子 ^⑥	福岡 哲郎 ^⑩	横山 隆 ^⑮	佐藤 なる代 ^⑮	
			呉 東富 ^⑤	小杉 良子 ^⑮	清水 信夫 ^⑮		
			太田 則義 ^⑦	竹内 万里子 ^⑮	苑原 康子 ^⑮		
			今泉 昌代 ^⑩	丸山 正雄 ^⑮			
会報部会	瀬能 正実 ^⑩	古橋 義弘 ^① 棟方 千恵子 ^⑮ 宇津 真治 ^⑮	荒川 太 ^⑮	永山 貴一 ^⑮	早川 京子 ^⑮		
			森 容子 ^⑮	石賀 秀行 ^⑮			
総務部会	大和田 るみ ^⑮	秋元 宏 ^⑧ 池上 繁夫 ^⑮	丸山 幸秀 ^⑩	吉野 由美子 ^⑮	茂木 壽 ^⑮	木下 博夫 ^⑮	高橋 薫 ^⑮
			河野 洋子 ^⑮	岡田 梨香 ^⑮	石川 洋 ^⑮	京極 球 ^⑮	雨森 園子 ^⑮

【注記】 ○内の数字は期

地域CCクラブ	代 表	運 営 委 員
芝CCクラブ	荒川 太 ^⑮	大鷲 淳子 ^⑮
高輪地区CCクラブ	太田 則義 ^⑦	太田 則義 ^⑦
明虹会 (港南・芝浦・台場地域)	齋藤 正精 ^⑥	高橋 薫 ^⑮
3Aクラブ (赤坂・青山・麻布・六本木地域)	岡田 梨香 ^⑮	岡田 梨香 ^⑮

【注記】 ○内の数字は期

編集後記

今年度から会報部会に参加いたしました。右も左も分からない私でしたが、経験豊富な諸先輩方に支えられ、幾度もの打ち合わせを経て「CC通信」第56号を無事完成させることができました。この通信が皆さまにとって実り多いものとなれば幸いです。今年は例年以上の猛暑が予想されています。本号に寄せられた18期生の熱い思いに触れながら、私たちも心身の健康を大切に、充実した日々を過ごしてまいりましょう。(16期 掛林敦子)

チャレンジコミュニティ通信 vol. 56 2026年8月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 社会連携部

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<https://www.minato-ccc.jp>

印刷協力 港区高輪地区総合支所協働推進課

会報部会員 (○数字は期)

部会長 瀬能正実^⑩

副部会長 太田則義^⑦ 森容子^⑮

石賀秀行^⑮

部 員 古橋義弘^① 棟方千恵子^⑮

宇津真治^⑮ 周藤孝夫^⑮

掛林敦子^⑮ 早川京子^⑮